

せせらぎ



2023年2月号

NO.400 記念号

滋賀県勤労者山岳連盟 湖南岳友会

目 次

1. 表紙からのメッセージ
2. 私のひとりごと
3. 3月定例山行案内【野伏ヶ岳】
4. 1月定例山行報告【東山トレイル】
5. 1月山行記録
6. 400号記念誌によせて



今月の予定

- | | | |
|--------------|------|-----------|
| ■2月4～5日(日) | 八ヶ岳 | (締切り済) |
| ■2月18～19日(日) | 野伏ヶ岳 | (締切り 2/5) |

表紙からのメッセージ

2017年3月5日 この日の為に、グリベルの12本アイゼンを買って、初めて登った大山です。山頂は深いガスの中で何も見えず、あきらめかけて足元に落とした視線を上げた時、一瞬でガスが晴れ美しい稜線が現れました。周りから歓声上がるほど、冬の大山は本当に美しく、忘れられない思い出です。

【K 西】

私の独り言

野菜づくりに打ち込んで5年、年中毎日忙しく動いています。

農協の直売所へ出荷してますが値下げ競争です。材料費は値上げしていますが野菜の値段は全然あがりません。専業の野菜農家は大変だろうと思う。米農家もたいへんで肥料その他ものすごい値上げです。米づくりも赤字で近所でもやめて預ける農家ばかりです。駅近くは別として郊外では田の土地価格も暴落しており買い手市場です。ま一米よりも野菜の方が儲かります。何せ機械の値段は米は何百万円ですが野菜は何十万単位ですので大分違います。野菜づくりも経験的にやっていた事が本当に正しいのか疑問に思い調べると科学的根拠に基づいている事柄もあります。野菜苗、花苗、切り花も出荷してますので近江八幡のラコリーナ近くにある「きてかーな」へ寄り買ってください。

尚「きてかーな」とは元八幡（八幡山周辺の13箇村）のごく限られた地域の方言で「来てください」であろうと思う。このあたりに住む親戚の人もこの言葉も喋っていました。

S. M



野伏ヶ岳

2月例会山行

岐阜と福井の県境にある、標高 1674m 両白山地の山。

日本三百名山にも選定されています。一般登山道がないため、積雪期限定のルートとなります。

白山中居神社（はくさんちゅうきょ）からダイレクト尾根で野伏ピークへ、そこから橋立峠～杉山を周回する 2DAYS コースです。

- 日程 2/18～2/19
- 集合 野洲駅南口 2/18 6:00
- 装備 雪山テン泊装備一式/個人テント
- 申し込み 〆切 2/5

DAY 1 白山中居神社～野伏ヶ岳 6:00 7km 登り1025/下り140m

DAY 2 橋立峠～杉山～白山中居神社 6:00 7km 登り370/下り1300m

Total タイム 12:00 距離 14km 登り 1400m 下り 1400m



例会東山トレイル報告

報告 S井

山行日時：令和5年1月3日(火)

参加者：5名

天候：曇り 時々晴

経過：9:00JR 奈良線乗車 9:20 分稻荷大社 10:20 稲荷山山頂 11:17 泉湧寺

12:30 清水山にて昼食 14:00 蹴上

参加者が過去に比べて少なくなっただろうと考えた所、新年会の予算が4000円以上とな

り そのせいかなと思いました。人数が少ないので「がんこ」での新年会はキャンセル

して参加者で相談して安い処であるかどうかも含めて相談する事にしました。

伏見稲荷大社はさすがに正月で大変な人出でした。伏見山を周回して縦走路にはいります。少し迷いましたが清水山まできて昼食。そこから蹴上へと下山しました。新年会は4名で山科駅前で焼き肉屋へ入りました。

2022年12月山行記録

山行期間	山域・山名	例会 等	参加者数		ブログ 掲載
			会 員	会 員 外	
12/3	余呉湖周回(賤ヶ岳など)		2		○
12/3	鈴鹿 御池岳		1		
12/4	青葉山	例会	10		○
12/11	入道ヶ岳	例会	14		○
12/18	高見山(奈良県)		2	1	○
12/20	地藏山・愛宕山		1		

※ コース、人数等は、事前に提出された計画書に基づいて記載していますので、
実際とは異なる場合もあります。

近郊の三上山、音羽山などの個人山行は、通常は記載しません。

複数の月にまたがる山行は、両方の月に掲載しています。

「せせらぎ」が第 400 号を迎えることができました

100 号を重ねるのに 8 年余りかかります 長い積み重ねでここまで続けることができました。

それで ささやかですが記念誌として 長年編集にご尽力くださいました方々 また事務局と

して機関誌部を後方支援してくださった方々 そして役員の方に寄稿をお願いしました。

突然のお願いにも関わらず快く原稿を寄せて下さった方々に心からお礼申し上げます。

鍋、釜を背負い、上高地街道を何度も行ったり来たり、槍の穂先から両手を上げて、日本一

気分。地震の時に、涸沢テンバで大きな岩が動く音に怯えたり、剣岳の岩場をガチガチで這

い上ったり 27 年の思い出話は両手では足りない！！

その時々が今でも蘇り顔がほころび満足な心地

微力ながら事務局の仕事もさせてもらい、沢山の人との出会いと別れを経験しました。

【せせらぎ 400 号】に寄稿出来て昔を懐かしみ思い出に浸れました。

岳友会が何時の時も、全ての人に感動を与える会である事を願い続けます。

【N 岡】



『せせらぎ』2 月号で発行No.400 になるとのこと。

初刊から 33 年 4 か月です。

数年前、機関誌に携わって思い出 苦労話は多々ありますが 一番苦労したのは現在の形に

変える時でした。どのようにすればいいのか？

皆さんの知恵や協力で何とかできました。

今になって感じるのは、周りの環境もグッドだったと思います。 【S 津】

「私の山の始まりは」

私の山は 10 代の頃に始まった。玄界灘を望む北九州国定公園内の低山群である。家の窓からは真っ黒な三角錐の炭鉱のボタ山も、その緑の山群と一線を画して遠くに見えていた。校歌にも歌われた山の名は今でも帰郷するたびに正解に名指しできた。遠足で登ったり夏・冬の休みにも登ったりもした山々である。振り向けばいつでも緑深い山並があり常に煙りたなびく工業地帯の背後にあって、庶民の身近にある登れる憩いの場であった。山登りの楽しさは子供の頃に覚えてしまった。

20 代には当時盛んになったワンダーフォーゲルに加わり登る山も九州一円に広がった。鍋釜や飲料水のポリタンや食料などで膨らんだ横長の布製キスリングを背負い先輩に追われるようにして山道を登っていた。合宿の夜は帆布のテントの中で山歌を皆で歌ったりもした。老いた今はこれら青春時代の艱難辛苦の山行が まばゆい程に懐かしい忘れ難

い思い出となっている。

【K 下】



せせらぎ記念誌によせて

昭和 53 年 9 月の結成から 45 年経ました。会で機関誌を発行する事となりその名称の候補として琵琶湖の自然風景にちなむ「かいつぶり(湖面に浮かぶ水鳥) (湖面の) せせらぎ」などがありせせらぎになったと記憶しています。

その当時はもちろんパソコンなどなかったので鉄筆で原稿を書いて印刷するガリ版刷から始めました。計画書、総会資料すべてガリ版刷でした。その後会員数も増えると私自身はせせらぎ発行に関与しなくなったのですが、表紙の手書き絵、編集、印刷、郵送ではなく会員への配達など大変な労力を費やしてここまで続けてこられた「せせらぎ」です。

その発行に携わってこられた会員の方々に感謝の気持ちです。

【S 井】

「せせらぎ」のこと

湖南岳友会 33 年余の歴史を刻んで第 400 号発行 おめでとうございます。

1992 年 6 月 21 日例会山行「大御影山」に初参加。メンバーは M 田 O 田 Y 田

M 井 S 本各氏と私の 6 名。その感想文を頼まれたのが「せせらぎ」との付き合いの始まり。

1993 年度から 1996 年度まで機関誌部のメンバーとして編集、印刷、製本、配布を 2

～3 名で担当。当時は 1 部約 20 頁で 発行部数は 75 部ほど。

会員以外に外部団体にも配布（植村冒険館にも送付され 館内に展示されていたとのこと）

2006 年 岳友会退会。「せせらぎ」との付き合いも終わり。

おまけの話

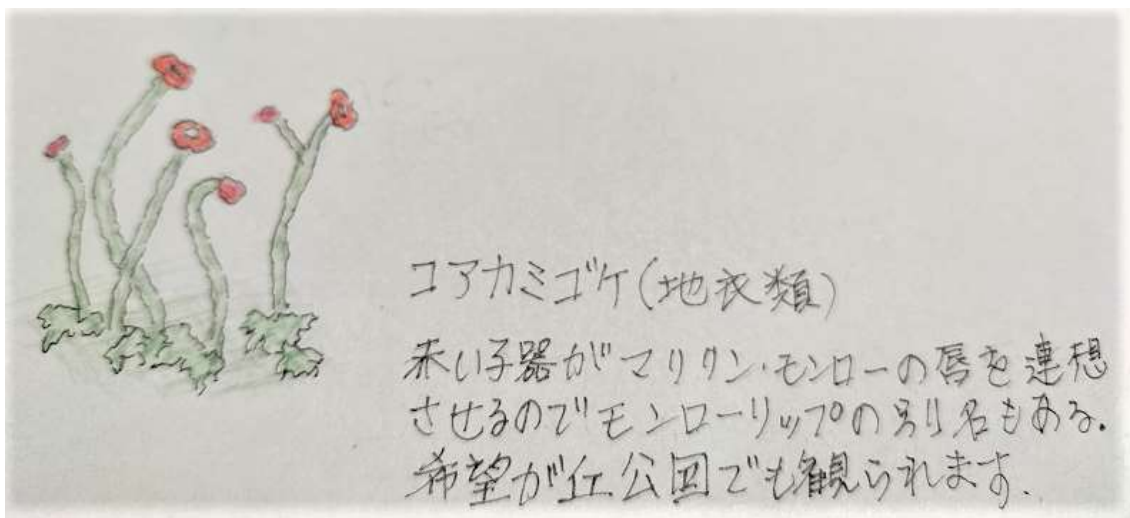
1989 年 12 月号（第 3 号）は担当者の勘違いで会報のタイトルが「さざなみ」に？！

この場を借りて近況報告

月に 3～5 回の山歩き 自然観察と映画館通い。

年に 10 回ほど希望が丘公園でのボランティア活動。

【H 塚】



私の大切な財産

私が退会したのは、2019 年 3 月。

止む無くの退会であった。本当はもっともっと長くいたかった。退会の理由は膝の故障であった。一般道路でも歩行に支障をきたすほど悪かった。だから仕方なく退会した。退会時の挨拶では涙が出たことを覚えている。

今、原稿を書くにあたって、いろんな思いが交錯している。海外登山、バスハイク、集中登山、合宿登山、通常山行、忘年会、スキー、しかし、これが一番というのではない。なぜならそれぞれに全てが一番であるから。だから順番をつけたくない。楽しくないものはなかった。なんといっても、会社の人の交流ではなく趣味の人の交流であるから、遠慮がなかったから。

私はここでの活動を通じて、幸せな人間であったと思う。私の生き方を変えてくれた会でもあった。特に何も趣味をもっていなかった私に。

だから、湖南岳友会に在籍してよかったと思う。ある意味では、私の生き方を変えてもらったところでもある。だから、今でもすばらしい会であると思っています。

正直、私の入会時期を覚えていない。

会長は O さんであった。その翌年に M さんになられたことを覚えている。その時最初の山行が湖北の「つづら尾崎」であった、私の茶色のマークⅡでいった。女性の方二名と男性二名で。

でも山行の詳細はよく覚えていない。どのルートで、食事はどこでなどとは全く記憶がない。

その後 4-5 年してからと思うが機関紙部の仕事をした。当時は機関紙もまだ紙物で、印刷は大津の県連事務所の古い印刷機を使用した。よく壊れるし、よく詰まるし、印刷の時間より修復の方が長く、困った。その後は近江八幡の会館でさせてもらった。ここの機械は調子良く、昔のことが嘘みたいであった。その後機関紙部から離れ、ホームページを担当することになった

が、はじめは分からない事が多すぎ、よく前任者のところへ教えてもらいにいった。

でも、2019 年の 3 月、膝の故障で仕方なく退会となった。私が会に所属していた間に学ぶべきことは多かった。趣味を通じて「よい人生をおくるには」について学んだと思う。でも、まだ今でもその答えは出ていない。

会社を離れ、何十年も、この「湖南岳友会」に所属したことは私の人生の中でも、大きくプラスになった。

最後になりましたが、湖南岳友会機関紙「せせらぎ」400 会号おめでとうございます。

これからも益々のご活躍をお祈りします。

【Y 田】

